



裏舞台を想像する

校長 佐久間 貴宏

6月に行われた学校総合体育大会では、多くの生徒がそれぞれの種目で力を尽くし、仲間とともに最後まで懸命に戦う姿がありました。競技に臨む表情には、日々の練習を積み重ねてきた者だけが持つ集中と覚悟があり、応援席からは仲間を信じて声を届ける温かいまなざしがありました。勝利の喜びを分かち合ったチームもあれば、悔しさを胸に次を誓った生徒もいますが、そのどれもが確かな成長の証です。県大会への出場権を獲得した選手やチームがあり、努力が形となって表れたことを大変誇らしく思います。県大会に臨む皆さんには、これまで培ってきた力を信じ、より大きな舞台で堂々と自分たちのプレーを発揮してほしいと期待しています。

こうした生徒の姿を思い浮かべると、今まさに世界中を熱狂させているサッカーワールドカップで戦う日本代表の姿と重なるものを感じます。日本代表が全力で戦う姿は私たちに大きな感動を与えてくれますが、テレビに映るのは「結果としての90分」にすぎません。その背後には、代表としての重圧や葛藤、仲間と切磋琢磨しながら積み重ねてきた膨大な練習、そして選考から外れた仲間の思いをも背負いながら歩んできた長い時間があります。華やかな舞台に立つまでに、数え切れないほどの選択と試行錯誤を繰り返し、自らの弱さと向き合いながら前に進んできた姿がそこにはあります。

大会テーマソングである米津玄師さんの『鳥』のミュージックビデオには、半分に切断された構造物や子どもの姿をしたダンサーなど、象徴的な場面が登場します。外からは見えない内部をあえて見せる映像は、選手たちが積み重ねてきた努力や葛藤を思い起こさせます。また、歌詞には、困難の中でも前へ進もうとする意志や、過去の自分と向き合いながら成長していく姿がにじみ、代表選手たちの歩みと重なる部分が少なくありません。音と言葉が重なり合うことで、選手たちの内面にある静かな決意がより鮮明に浮かび上がります。

ピッチに立つ選手たちは、自己決定と自己調整を繰り返し、「サッカーが好き」という思いを支えに努力を積み重ねてきた人たちなのだと想像します。これは、学校総合体育大会に向けて日々練習を続けてきた本校の生徒の姿とも通じる部分もあると思います。夢を追うとは、ただ願うことではなく、挑戦し、失敗し、また立ち上がることの連続です。その過程の中で、人は強くなり、仲間の存在の大きさにも気づきます。

本校が掲げる「夢をはぐくむ学校」という教育目標は、『見えない時間の蓄積』を大切にする姿勢と深くつながっています。学校総合体育大会での生徒の頑張りも、ワールドカップで戦う選手たちの姿も、その背景には見えない努力と支えてくれる人々の存在があります。生徒の皆さんには、結果だけでなく、その過程にこそ価値があることを理解し、仲間の努力に思いを寄せる豊かなまなざしを育んでほしいと思います。県大会に挑む本校の選手たちの健闘を願うとともに、世界の舞台で戦う選手たちの姿が、生徒一人ひとりの夢や目標を考えるきっかけとなることを期待しています。